

中野島のひるば

2009年3・4月
市議会報告
日本共産党
市会議員
井口まみ

(発行)
日本共産党市会議員団
川崎市川崎区宮本町1
電話 200-3360
FAX 245-4140
http://www.
iguchi-mami.jp
メール: mail@
iguchi-mami.jp

子どもを暖かく豊かに育てたい

9年間にたった1回のメガネの支給もやめるなんて 就学援助の充実を日本共産党が要求

急激な景気の悪化で、非正規労働者の解雇が相次ぐだけでなく、正社員や自営業の方たちも収入減に苦しんでいます。こういふときこそ自治体が手を差し伸べるべきです。とくに、子どもたちに悲しい思いをさせてはいけなく、日本共産党は三月議会で雇用の拡大などとともに、就学援助の拡大を求めました。

削りに削った七年間

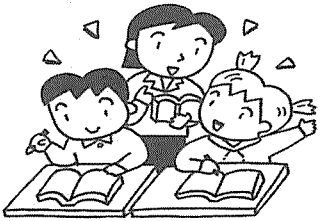
代表質問に立った竹間幸一・日本共産党川崎市議員は、「阿部市長が行財政改革を始めてから七年。それまで市民生活を応援してきた、削ってはいけなくありとあらゆる施策をそぎ落としてきた」と指摘しました。

教育にかかわる費用では、自然教室の食事代を有料化し、小学五年生と中学二年生で、五千円近くの負担が増えたり、多くの親の願いだった中学校給食が、市の補助のまったくない「ランチサービス」になり、一食四百円もすることから、各学校で数食しか利用がなくなってしまうなど、頭の痛いことばかりです。

とくに義務教育の九年間、お金のあふなしで教育に差がついてはいけなく行われてきた「就学援助」は、教材費や給食費だけでなく、卒業アルバム代や、校外見学の費用などが出ていきましたが、これを次々と削減しました。このなかで、九年間でたった一回つくることができた近視用のメガネの補助がなくなりました。

メガネをかけて「勉強がわかるようになった」

ある中学校の先生が訴えます。「小学校のころからずっと落ち着きがないといわれてきた子どもが、メガネを作ったら、黒板が見えるようになり、勉強がわかって、いすに座るようになった。これほどメガネの効果は大きいのに、



その補助がなくなってしまう」。川崎市は「めがねは何度も作りかえる必要があり、一回では効果がないから」と言います。

卒業アルバムをもらえない子がいたらどうするのか

この問題では、二〇〇五年六月議会の代表質問で、井口まみ市議員が「就学援助から卒業アルバムの補助費を削るな」と質問していました。「ひとり五千円もの個人負担は難しい人もいます。でも卒業アルバムは全員がもらわなければならないのか」という質問に対し、市長は「受益者負担の原則」「もらうものは払ってもらおう」と繰り返しました。

今回も同じ答弁が繰り返されました。日本共産党は市長に対し、「就学援助を充実し、お金のあふなしで子どもたちが悲しい思いをすることを絶対になくすべき」と強く主張しました。

「子どもの学費が工面できない」 奨学金、貸付等の制度があります あきらめないでご相談を

「私立にいきたいが、入学金も授業料も心配」「親の収入が急に減って、授業料を払い続けられない」など、今の不況が子どもたちにまで影響を及ぼしています。日本共産党市議団では、子どもたちの夢をあきらめずにすむように、国や川崎市、神奈川県などの奨学金や貸付の制度をまとめて紹介しています。

川崎市には返還しなくてもよい高校生のための奨学金制度があります。4月の中ごろが締め切りなので、通学している学校で申し込みますが、市が予算を減らし、毎年350人しか定員枠がないため、希望者の3分の1しか受けられません。日本共産党は、予算を増やすよう、つよく要求しています。

お問い合わせは、
TEL 200-3360まで



多摩川サイクリングコースを 稲城までつなごう！

井口市議、当面使える散策路の整備を要望

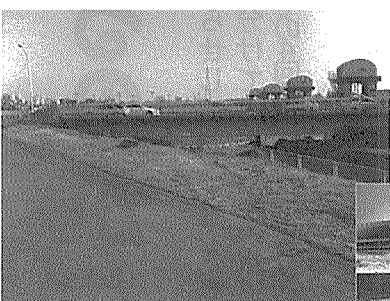
毎日たくさんの方が散策やランニングなどで親しんでいる多摩川サイクリングコースですが、中野島から上流は、布田橋でコースが途切れています。以前から布田橋の拡幅などを求めています。なかなか進展がありません。そんななか、二カ領用水の取水口をぐるっとまわれば、河川敷に出られることがわかりました。

釣りをする人は知っている

布田橋の信号を一度渡って、二カ領用水に沿っていくと、二カ領用水の対岸は車止めはありますが舗装された土手になって

国に整備を要望

二カ領の土手も国の土地なので、川崎市が勝手に整備することではできませんが、井口まみ市議は三月議会で、「川崎市からの整備を申し入れるべき」とた



↑二カ領用水の取水口の土手から、布田橋の下をくぐる小道が。くぐると河川敷です



ご協力ありがとうございました

「雇用と労働に関するアンケート」 1500通を超える返信が！ 深刻な労働の実態が明らかに

日本共産党川崎市議団が取り組んだ「雇用と労働に関するアンケート」の返信が、全市で千五百通を超えて寄せられ、「解雇された」「仕事がなくなり収入が激減した」など大変な実態が川崎市内でも広がっていることが明らかになりました。相談のなかで個人加入の労働組合に入る人もいるなど、新しい一歩につながった人もいます。

「派遣切り」は

他人ごとではない

寄せられたアンケートには、「派遣切りにあつて、収入がない」「仕事がなくたって、家賃が払えない」などの、深刻な話で埋め尽くされており、改めて雇用の現実の現実の厳しさを実感させられます。「今はまだ大丈夫」という人も「こんなに若い人を使い捨てする社会は、未来がない」「これからの会社は大丈夫なのだろうか」という声が寄せられ、どの年代、どの階層の方も今の社会のあり方を心配していることがうかがえました。

労働組合に入ろう

同様に目立ったのは「困ったこと

があつてもどこに相談したらいいのかわからない」という声でした。「バイトだが残業しても、休日出勤してもまったく給料が増えないのはおかしい」という相談に対し、働いている地域の労働組合を紹介したところ、「さっそく加入しました。いま、会社と交渉する準備をしています」とメールが届きました。

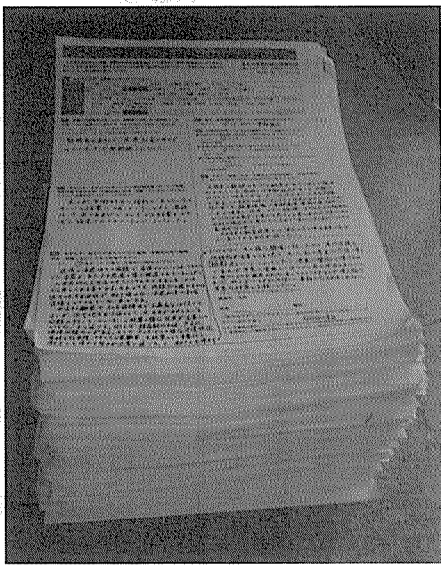
いっそうの相談活動を

これからさらに三月末を迎え、派遣切りなどの人が増えるといわれています。日本共産党は国や市に対し、雇用だけでなく生活の問題も同時に相談できる窓口を創設することを求めています。何かあったらいつでも、日本共産党市議団にご相談ください。

保育園に入れないという声が相次ぎ

圧倒的に目立ったのが、「保育園に入れない」という訴えでした。おりしも保育園の入所申し込み、発表の時期で、「働かないと生活できないのに、保育園に入れない。川崎はどうなっているのか」という悲痛な声が上がっています。

日本共産党議員団はこの声を代表質問で取り上げ、直ちに市の対応を求めました。



全市から寄せられたアンケート。悩みがぎっしりと書かれています。

ご意見、ご感想をお寄せ下さい

生田浄水場はなぜ廃止されるのか

その4

※生田浄水場が廃止される計画であることをお知らせしたところ、多くの方から「なぜなのか」と問合せがありました。何回かに分けて、川崎市の水道の歴史や今の計画について、お知らせしていきます。今回はその4回目、いよいよ最終回です。

生田浄水場を廃止し、自己水源からの水を減らして、企業団の水は買い続ける。これはどんな問題を持っているのでしょうか。

なによりも、市内で手にはいる、しかもほとんど手を加える必要のないきれいな水を放棄することは、地震など、大規模災害のときの備えを失うということになります。井戸水は水道局がペットボトルで売

るくらいきれいで、災害時には大きな役割を果たします。市内の水源がなくなれば、相模湖は川崎から三十二km、企業団の飯塚取水堰は五〇kmと、遠いところからしか水はこなくなるのです。日本共産党の井口まみ市会議員は、二〇〇七年の十二月議会で、「自己水源を手放して、いざというときにどうするのか」と質問し、「災害時の緊急用水源として、(いくつかの)井戸を維持する」という答弁を始めて得ました。やはり遠くの水源よりも近くの水源のほうがいざというときには必要なのです。

また、河川の下流から取る水が増えることは、水質の悪化をもたらします。いまは、相模湖の水が中心ですから、不純物は泥がほとんどです。そのため長沢浄水場では細かな泥をとればきれいになります。川崎市の水は、井戸水はもちろん、相模湖の水もきれいなので、コストもかからずおいしいのです。しかし、他の都市では、さらにさまざま不純物を取り除くため、高度処理を行っています。大阪

市は、粒状活性炭処理とオゾン処理の工程を加えるために、相当の設備投資を

しています。川崎市も今回の長沢浄水場の改築にともない、臨時的に行っていた活性炭処理を恒常的に行うための水槽を新設することになっていますし、さらに高度処理をする可能性を見込んで、その場所を確保しています。「再構築計画」では、これらを総合的に勘案して、「コスト計算をしているわけではありません」。

水道料金も、浄水場のコストによって、今のままで大丈夫かどうかわかりません。また、「補てん水」の廃止によって、臨海部の大企業は工業用水の料金が下がる可能性が出てきます。しかし、その分、一般家庭の水道水が上がるのではないかと懸念が生じます。

結局、「企業団」の水をそのままにして、自己水源を減らすというところから、市民は、近くておいしい水よりも、遠くで高い水を飲まなければならなくなるという矛盾を作り出します。日本共産党は、「企業団」の水を本当にいまの値段で買いつけなければならぬのか、もっとスリムにできるのではないかと考えており、「企業団」と、その構成員である川崎市にたいして、厳しい検討を求めていきます。

そのうえで、井戸水を含む自己水源を維持して、市民に安くて安全でおいしい水を供給し続けるよう、「再構築計画」の再検討をもとめていきます。



生田浄水場全景